

令和5年度第1回伊賀地域高等学校活性化推進協議会

令和5年7月25日

配 付 資 料

- 令和5年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・ P 1
 - 伊賀地域高等学校活性化推進協議会設置要綱・・・・・・・・・・ P 2
 - 【資料1】 令和4年度第2回伊賀地域高等学校活性化推進協議会の概要・・ P 3
 - 【資料2】 伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況（5力年比較）・・・・・・・・ P 5
 - 【資料3】 伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況【市別】・・・・・・・・ P 6
①令和5年3月卒、②令和4年3月卒
 - 【資料4】 伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況の推移・・・・・・・・ P 8
①人数、②割合
 - 【資料5】 伊賀地域の県立高等学校(全日制)の入学者選抜の状況・・・・ P 10
①令和5年度、②令和4年度
 - 【資料6】 各高等学校の入学者の出身中学校と卒業者の進路状況・・・・ P 12
①令和5年、②令和4年
 - 【資料7】 伊賀地域の県立高等学校への入学状況の推移【北部・南部別】・・ P 14
 - 【資料8】 令和5年度の協議について・・・・・・・・・・・・・・・・ P 15
 - 【資料9】 伊賀地域の県立高等学校における学びと配置のあり方に係る協議 P 17
 - 【資料10】 伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)・・・・ P 24
①市別、②北部・南部別
 - 【資料11】 県全体の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員の推移・・・・ P 26
 - 【資料12】 伊賀地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員の推移・・ P 27
 - 【資料13】 伊賀地域の全日制高等学校の学級数の推移（市別）・・・・ P 28
①伊賀市、②名張市
 - 【資料14】 伊賀地域の高等学校等の学科・コースについて・・・・・・・・ P 30
 - 【資料15】 伊賀地域県立高等学校の特色（各校）・・・・・・・・ P 31
 - 【追加資料1】 全日制高校進学者の地域間の移動状況・・・・・・・・・・ 別紙
 - 【追加資料2】 伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況【北部・南部別】・・・・ 別紙
①令和5年3月卒、②令和4年3月卒
- 【別添資料】
- 令和元・2年度の協議のまとめ
 - 県立高等学校活性化計画（令和4年3月）

令和5年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会 委員

令和5年7月25日現在

区分	所属等	氏名	
1 学識経験者 (1名)	三重大学大学院 地域イノベーション学研究所 准教授	かとう たかや 加藤 貴也	継続
2	上野都市ガス株式会社 取締役保安工務部長	にし がき ひろなお 西 垣 浩 尚	継続
3 有識者 (4名)	中外医薬生産株式会社 管理本部マネージャー	かじ もと けん たろう 梶本 健太郎	継続
4	株式会社アサネットワーク 代表	い しゅう もと ゆき 伊集 基之	継続
5	オキツモ株式会社 経営管理部総務課長	かとう こう し 加藤 幸司	R5新
6 P T A 関係者 (5名)	伊賀市P T A連合会 顧問 (伊賀市立城東中学校P T A)	きよ す たか ひろ 清 須 貴 博	継続
7	名張市P T A連合会 顧問 (名張市立北中学校P T A)	きた がわ しょう じ 北 川 昌 司	継続
8	伊賀地区県立学校P T A協議会 会長 (名張青峰高等学校P T A会長)	さか もと のぶ ひと 坂本 信人	R5新
9	伊賀市内県立学校P T A 代表 (上野高等学校P T A会長)	にし だ けん いち 西 田 賢 一	R5新
10	名張市内県立学校P T A 代表 (名張高等学校P T A会長)	あん どう み ほ穂 安 藤 美 穂	継続
11 市教委教育長 (2名)	伊賀市教育委員会 教育長	たに ぐち しゅう いち 谷 口 修 一	継続
12	名張市教育委員会 教育長	にし やま よし かず 西 山 嘉 一	継続
13 小中学校長代表 (2名)	伊賀市小中学校長会 代表 (伊賀市立崇広中学校 校長)	ふた い ひで お 二 井 英 夫	R5新
14	名張市小中学校長会 代表 (名張市立赤目中学校 校長)	やま もと かず ひろ 山 本 和 弘	R5新
15 教員代表 (2名)	小中学校教員 代表 (名張市立比奈知小学校 教諭)	やま ぐち てつ や 山 口 徹 也	R5新
16	高等学校教員 代表 (名張青峰高等学校 教諭)	ふじ たか てる や 藤 高 照 也	R5新
17 県立学校長代表 (3名)	名張高等学校 校長	ほり まさ ひろ 堀 昌 弘	継続
18	あけぼの学園高等学校 校長	つ げ みつ じ 柘 植 三 治	R5新
19	名張青峰高等学校 校長	みず もり さと し 水 守 智 士	R5新

計19名

伊賀地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

(設 置)

第1条 県立高等学校の活性化を推進し、地域社会における高等学校の特色化、魅力化を図り、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するために、伊賀地域高等学校活性化推進協議会（以下、協議会という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に協議する。

- (1) 今後の伊賀地域全体における県立高等学校の在り方に関する事
- (2) 施設・設備に関する事
- (3) 県立高等学校活性化推進に資する事
- (4) その他検討を要する事

(組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

(会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は平成17年7月21日から施行する。

附 則

この要綱は平成19年5月18日から施行する。

附 則

この要綱は平成19年10月2日から施行する。

附 則

この要綱は平成23年1月17日から施行する。

附 則

この要綱は平成23年8月29日から施行する。

附 則

この要綱は平成24年7月10日から施行する。

附 則

この要綱は平成29年9月4日から施行する。

令和 4 年度第 2 回伊賀地域高等学校活性化推進協議会の概要

- 1 日時 令和 5 年 2 月 1 4 日（火） 1 9 時 0 0 分から 2 1 時 0 0 分まで
- 2 場所 県伊賀庁舎 大会議室
- 3 概要

少子化により、伊賀地域の県立高校の総学級数が令和 5 年度の 25 学級から令和 13 年度には 19~20 学級規模となり、その先もさらなる学級数の減少が見込まれる中、「令和元・2 年度の協議のまとめ」や「県立高等学校活性化計画」をふまえ、これからの当地域の県立高校における学びと配置のあり方について協議しました。

主な意見は次のとおりです。

《当地域の県立高校における学びと配置のあり方について》

- 子どもたちの学びのためには小中学校と同様に高校も統合して、一定の学級数を確保する必要がある。その際は、志願者が増加している英心高校桔梗が丘校や他地域の高校の活性化の事例も参考にしながら、今後の地域の県立高校の特色化・魅力化を考えていく必要がある。
- 不登校の子どもたちが増加傾向にあることから、個別最適な学びや少人数指導へのニーズが高まっている。また、通信制課程へのイメージも前向きに変化してきており、学びの多様化を感じている。
- 現場の教員としての立場から今後の地域の高校のあり方を考えると、生徒一人ひとりの様々なニーズに応えられるよう、特色ある学びを残すことが大切であると考えている。
- 伊賀地域の専門学科や総合学科の高校では、多様な関係者の協力を得て地域と協働した学びを推進しているが、それが高校を選ぶ直接的な理由になっているのかは再考しなければならない。就学支援金により公立と私立との間の経済的負担の差が少なくなることが、生徒の動向にも影響を与えている。
- 伊賀地域の普通科高校では、探究的な学びを進めるうえで地域から様々な教材や調べ学習の場を提供いただいたり、地域の小中学校や施設への出前授業、企業との協働、市政への政策提言などを行ったりしている。大学卒業後に地元に戻るなど、将来の伊賀地域を支える人材として期待されていると感じている。
- 小学校 6 年生の子どもたちが高校生と交流する人権学習の機会を通じて、高校に強い憧れを抱く児童も多かった。キャリア教育の一環として、小中学生が高校生と交流し、地域の各高校の魅力を知る取組も大切ではないか。
- 当協議会の役割は、高校の魅力化についての協議と、その協議を積み重ねた協議会のまとめへの承認ではないか。伊賀地域から人が離れていくのを防ぐためには、他地域にはない行政の施策が必要であり、学校活性化と地域活性化が両輪となることが大切である。

- 隣県でも少子化の進行により高校の統廃合や志願者の増加をめざした取組が進められている。学校の魅力化には独自性が大切であり、他地域へ流出している中学校卒業者の半数でも取り戻せれば、高校の小規模化に歯止めをかけられる。
- 県境に接する伊賀地域においては、県外の生徒や高校との関係も影響するが、県外志願者の受け入れに関する状況は現在どうなっているのか。また、10～15年先を見据えた場合には、その条件を緩和して県外からも志願者を集める方向性は考えられないか。
 - ⇒ (事務局) 公立高校にはその自治体に居住する生徒が進学することになるが、交通不便地においては、県同士が協定を締結して県境を越えて志願できる場合もある。
 - 県外からの生徒募集については、公立高校の全国募集を推進する「地域みらい留学」などの取組もあるが、県内中学生の進路保障の観点が重要となるため、県外からの生徒募集については慎重に議論する必要がある。

《今後の当協議会での協議について》

- 以前から伊賀地域の県立高校のよさが中学生や保護者にうまく伝わっていないと言われている。将来を見通した議論に加え、各学校のPRをしっかりとすべきだ。
- 先を見据えた議論は大切であるが、時間はすぐに過ぎてしまう。次年度の協議では、事務局から何らかの方向性を具体的に示してもらいたい。
- 次年度は、各高校のより詳細な情報をまとめた資料を共有し協議したうえで、それらをふまえた具体案を事務局が提示してはどうか。また、その際、より協議が深まるよう複数の案を提示してほしい。
- 今後、松阪地域や津地域など他地域でも協議会で協議が始まっていくと聞いている。伊賀地域は高校進学時に地域を越えた生徒の移動が多い地域であるため、協議の資料として地域間の移動に関する情報を提供してもらいたい。
- 人口減少の中、学校と地域には共通の課題があるように思う。協議にあたっては、地域の自治体やまちづくり協議会からのアイデアや意見ももらえるとよいのではないか。
- 現中学3年生の12月進路希望状況調査において、伊賀地域の県立高校を希望する地元の中学生の割合が7割を下回っていることは衝撃的であり、伊賀市と名張市で10ポイント以上の差がある。次年度の協議では、この資料についても伊賀北部と南部という区分で提供してもらいたい。
- 今後の高校のあり方を考えていくためには、実際に高校に入学する子どもたちのニーズを把握することが大切であり、令和5年度から6年度にかけてアンケート調査を行ってはどうか。

伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況（5力年比較）

資料 2

区分	進路先	平成31年3月卒		令和2年3月卒		令和3年3月卒		令和4年3月卒		令和5年3月卒	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
伊賀地域 県立 全日制	上野	270	19.1	264	19.2	260	18.8	269	19.3	238	17.5
	伊賀白鳳	259	18.3	252	18.3	229	16.6	230	16.5	230	16.9
	あけぼの学園	60	4.2	67	4.9	67	4.8	68	4.9	61	4.5
	名張	177	12.5	145	10.5	171	12.4	189	13.6	169	12.4
	名張青峰	258	18.2	250	18.2	222	16.1	226	16.2	224	16.4
	小計	1,024	72.3	978	71.0	949	68.6	982	70.5	922	67.7
他地域 県立 全日制	津	52	3.7	48	3.5	40	2.9	28	2.0	37	2.7
	津西	30	2.1	27	2.0	30	2.2	26	1.9	26	1.9
	上記以外 ※1	70	4.9	74	5.4	61	4.4	50	3.6	52	3.8
	小計	152	10.7	149	10.8	131	9.5	104	7.5	115	8.4
県内 私立 全日制	鈴鹿	1	0.1	1	0.1	4	0.3	5	0.4	11	0.8
	高田	9	0.6	5	0.4	9	0.7	8	0.6	11	0.8
	三重	12	0.8	17	1.2	19	1.4	18	1.3	16	1.2
	桜丘	6	0.4	5	0.4	7	0.5	10	0.7	1	0.1
	上記以外 ※2	3	0.2	9	0.7	10	0.7	7	0.5	7	0.5
	小計	31	2.2	37	2.7	49	3.5	48	3.4	46	3.4
県外 全日制	国公立	10	0.7	10	0.7	8	0.6	8	0.6	6	0.4
	私立	52	3.7	51	3.7	62	4.5	59	4.2	54	4.0
	小計	62	4.4	61	4.4	70	5.1	67	4.8	60	4.4
定時制	上野	18	1.3	5	0.4	10	0.7	13	0.9	8	0.6
	名張	10	0.7	10	0.7	11	0.8	13	0.9	12	0.9
	上記以外の県内	0	0.0	1	0.1	2	0.1	0	0.0	0	0.0
	山辺高校山添分校	5	0.4	7	0.5	16	1.2	3	0.2	8	0.6
	上記以外の県外	2	0.1	2	0.1	1	0.1	2	0.1	0	0.0
	小計	35	2.5	25	1.8	40	2.9	31	2.2	28	2.1
通信制	県立（北星・松阪）	2	0.1	2	0.1	2	0.1	3	0.2	3	0.2
	英心桔梗が丘校							24	1.7	57	4.2
	英心伊勢本校	11	0.8	20	1.5	5	0.4	11	0.8	6	0.4
	徳風	8	0.6	6	0.4	13	0.9	5	0.4	2	0.1
	上記以外の県内	3	0.2	2	0.1	2	0.1	2	0.1	1	0.1
	県外	20	1.4	24	1.7	45	3.3	27	1.9	29	2.1
小計	44	3.1	54	3.9	67	4.8	72	5.2	98	7.2	
高等専門 学校	鈴鹿高専	4	0.3	6	0.4	10	0.7	9	0.6	3	0.2
	鳥羽商船	2	0.1	2	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	近大高専	40	2.8	34	2.5	32	2.3	57	4.1	53	3.9
	県外	2	0.1	4	0.3	2	0.1	2	0.1	5	0.4
	小計	48	3.4	46	3.3	44	3.2	68	4.9	61	4.5
特別支援 学校	伊賀つばさ学園	5	0.4	5	0.4	12	0.9	4	0.3	9	0.7
	上記以外の県内	1	0.1	0	0.0	0	0.0	1	0.1	1	0.1
	県外	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	小計	6	0.4	5	0.4	12	0.9	5	0.4	10	0.7
その他	専修・各種・職訓	1	0.1	7	0.5	4	0.3	1	0.1	3	0.2
	就職	8	0.6	5	0.4	6	0.4	2	0.1	6	0.4
	上記以外 ※3	6	0.4	10	0.7	11	0.8	13	0.9	13	1.0
	小計	15	1.1	22	1.6	21	1.5	16	1.1	22	1.6
公立中学校卒業生数		1,417	100.0	1,377	100.0	1,383	100.0	1,393	100.0	1,362	100.0

令和5年3月卒業生

- ※1 桑名2、いなべ総合1、四日市1、四日市工業1、菟野3、白子3、亀山6、津商業2、津東9、津工業9、久居1、久居農林1、白山5、松阪3、松阪工業2、昴学園2、宇治山田商業1 の計52人
- ※2 津田学園2、海星2、メリノール1、皇學館1、伊勢学園1 の計7人
- ※3 進学待機、求職中など

伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況（令和5年3月卒）

資料3①

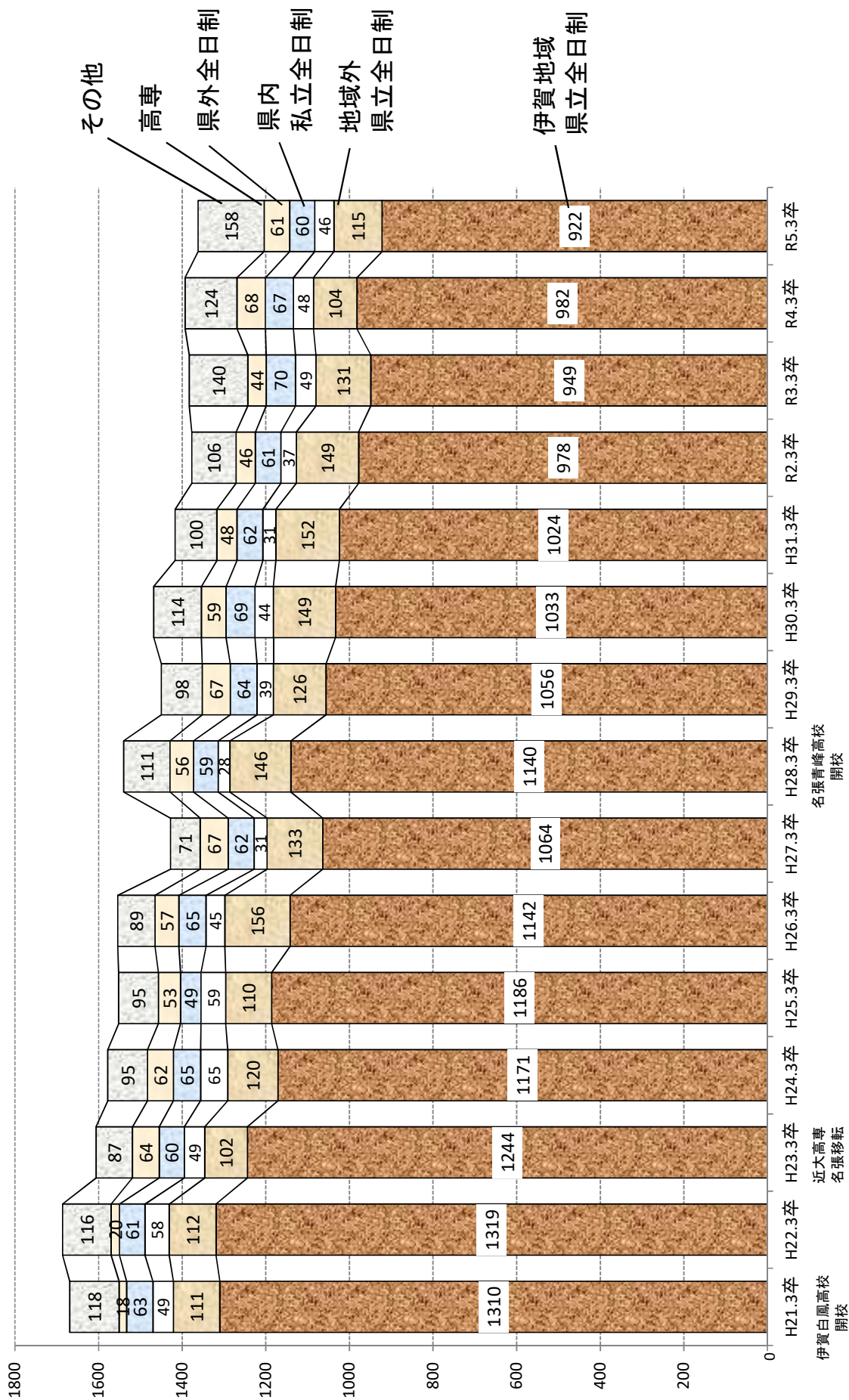
区分	進路先	伊賀市		名張市		伊賀地域合計	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
伊賀地域 県立 全日制	上野	165	22.9	73	11.4	238	17.5
	伊賀白鳳	201	27.9	29	4.5	230	16.9
	あけぼの学園	42	5.8	19	3.0	61	4.5
	名張	50	6.9	119	18.5	169	12.4
	名張青峰	72	10.0	152	23.7	224	16.4
	小計	530	73.6	392	61.1	922	67.7
他地域 県立 全日制	津	10	1.4	27	4.2	37	2.7
	津西	7	1.0	19	3.0	26	1.9
	上記以外	30	4.2	22	3.4	52	3.8
	小計	47	6.5	68	10.6	115	8.4
県内 私立 全日制	鈴鹿	10	1.4	1	0.2	11	0.8
	高田	7	1.0	4	0.6	11	0.8
	三重	5	0.7	11	1.7	16	1.2
	桜丘	0	0.0	1	0.2	1	0.1
	上記以外	5	0.7	2	0.3	7	0.5
	小計	27	3.8	19	3.0	46	3.4
県外 全日制	国公立	4	0.6	2	0.3	6	0.4
	私立	26	3.6	28	4.4	54	4.0
	小計	30	4.2	30	4.7	60	4.4
定時制	上野	7	1.0	1	0.2	8	0.6
	名張	3	0.4	9	1.4	12	0.9
	上記以外の県内	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	山辺高校山添分校	3	0.4	5	0.8	8	0.6
	上記以外の県外	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	小計	13	1.8	15	2.3	28	2.1
通信制	県立（北星・松阪）	2	0.3	1	0.2	3	0.2
	英心桔梗が丘校	10	1.4	47	7.3	57	4.2
	英心伊勢本校	0	0.0	6	0.9	6	0.4
	徳風	2	0.3	0	0.0	2	0.1
	上記以外の県内	0	0.0	1	0.2	1	0.1
	県外	10	1.4	19	3.0	29	2.1
	小計	24	3.3	74	11.5	98	7.2
高等専門 学校	鈴鹿高専	3	0.4	0	0.0	3	0.2
	鳥羽商船	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	近大高専	24	3.3	29	4.5	53	3.9
	県外	3	0.4	2	0.3	5	0.4
	小計	30	4.2	31	4.8	61	4.5
特別支援 学校	伊賀つばさ学園	5	0.7	4	0.6	9	0.7
	上記以外の県内	1	0.1	0	0.0	1	0.1
	県外	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	小計	6	0.8	4	0.6	10	0.7
その他	専修・各種・職訓	3	0.4	0	0.0	3	0.2
	就職	4	0.6	2	0.3	6	0.4
	上記以外	6	0.8	7	1.1	13	1.0
	小計	13	1.8	9	1.4	22	1.6
公立中学校卒業者数		720	100.0	642	100.0	1,362	100.0

伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況（令和4年3月卒）

資料3②

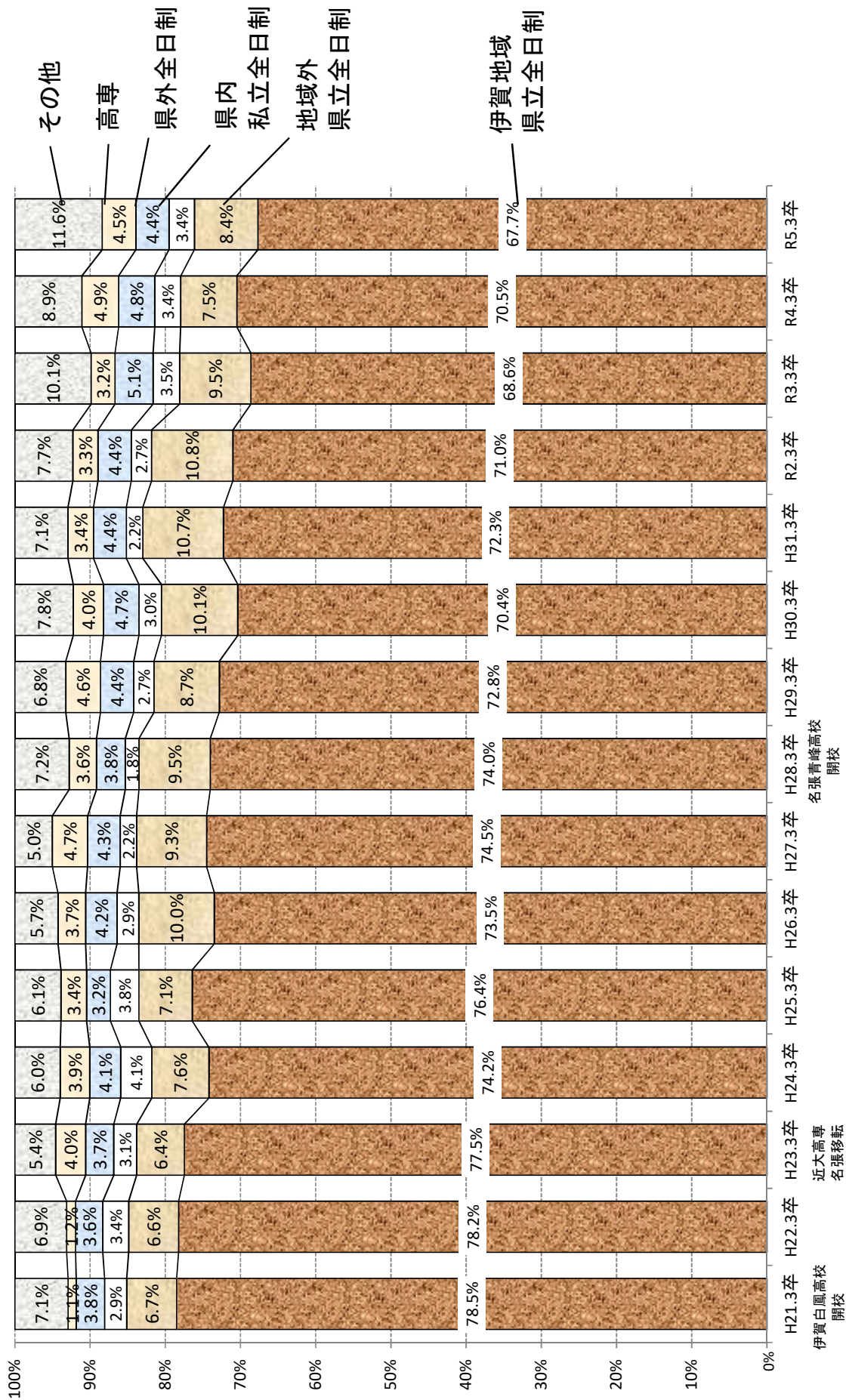
区分	進路先	伊賀市		名張市		伊賀地域合計	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
伊賀地域 県立 全日制	上野	206	27.9	63	9.6	269	19.3
	伊賀白鳳	188	25.4	42	6.4	230	16.5
	あけぼの学園	43	5.8	25	3.8	68	4.9
	名張	60	8.1	129	19.7	189	13.6
	名張青峰	66	8.9	160	24.5	226	16.2
	小計	563	76.2	419	64.1	982	70.5
他地域 県立 全日制	津	5	0.7	23	3.5	28	2.0
	津西	9	1.2	17	2.6	26	1.9
	上記以外	27	3.7	23	3.5	50	3.6
	小計	41	5.5	63	9.6	104	7.5
県内 私立 全日制	鈴鹿	5	0.7	0	0.0	5	0.4
	高田	5	0.7	3	0.5	8	0.6
	三重	6	0.8	12	1.8	18	1.3
	桜丘	5	0.7	5	0.8	10	0.7
	上記以外	3	0.4	4	0.6	7	0.5
	小計	24	3.2	24	3.7	48	3.4
県外 全日制	国公立	5	0.7	3	0.5	8	0.6
	私立	25	3.4	34	5.2	59	4.2
	小計	30	4.1	37	5.7	67	4.8
定時制	上野	13	1.8	0	0.0	13	0.9
	名張	4	0.5	9	1.4	13	0.9
	上記以外の県内	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	山辺高校山添分校	1	0.1	2	0.3	3	0.2
	上記以外の県外	1	0.1	1	0.2	2	0.1
	小計	19	2.6	12	1.8	31	2.2
通信制	県立（北星・松阪）	2	0.3	1	0.2	3	0.2
	英心桔梗が丘校	7	0.9	17	2.6	24	1.7
	英心伊勢本校	0	0.0	11	1.7	11	0.8
	徳風	4	0.5	1	0.2	5	0.4
	上記以外の県内	1	0.1	1	0.2	2	0.1
	県外	10	1.4	17	2.6	27	1.9
	小計	24	3.2	48	7.3	72	5.2
高等専門 学校	鈴鹿高専	7	0.9	2	0.3	9	0.6
	鳥羽商船	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	近大高専	21	2.8	36	5.5	57	4.1
	県外	1	0.1	1	0.2	2	0.1
	小計	29	3.9	39	6.0	68	4.9
特別支援 学校	伊賀つばさ学園	0	0.0	4	0.6	4	0.3
	上記以外の県内	0	0.0	1	0.2	1	0.1
	県外	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	小計	0	0.0	5	0.8	5	0.4
その他	専修・各種・職訓	1	0.1	0	0.0	1	0.1
	就職	1	0.1	1	0.2	2	0.1
	上記以外	7	0.9	6	0.9	13	0.9
	小計	9	1.2	7	1.1	16	1.1
公立中学校卒業者数		739	100.0	654	100.0	1,393	100.0

伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況の推移【人数】



資料4②

伊賀地域公立中学校卒業者の進路状況の推移【割合】



伊賀地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況（令和5年度）

資料5①

高校名	学科・コース名	R5 募集定員	R4.12 希望者数	前期選抜等			後期選抜				再募集			合格者 総数	入学者数	欠員
				募集人数	志願者数	合格 内定者数	募集人数	志願者数 (最終)	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
上野	普通	200	167				200	176	0.88	200				200	200	0
	理数	40	78	20	73	20	20	48	2.40	20				40	40	0
	計	240	245	20	73	20	220	224	1.02	220				240	240	0
あけぼの学園	総合学科	80	55	40	55	44	36	21	0.58	21	15	5	5	70	70	10
				4	0											
伊賀白鳳	機械	35	43	18	39	20										
	電子機械	35	20	18	21	18										
	建築デザイン	35	39	18	37	20										
	生物資源	35	32	18	32	20	105	110	1.05	105				240	240	0
	フードシステム	35	43	18	43	20										
	経営	30	27	15	26	17										
	ヒューマンサービス	35	37	18	38	20										
	計	240	241	123	236	135	105	110	1.05	105				240	240	0
名張	総合学科	200	179	100	184	108	92	78	0.85	78	14	3	3	189	188	12
	計															
名張青峰	普通	200	180	60	176	66	134	113	0.84	133	1	0	0	201	201	0
	文理探究コース	40	46	20	45	22	18	40	2.22	18				40	40	0
	計	240	226	80	221	88	152	153	1.01	151	1	0	0	241	241	0
伊賀地域計		1,000	946	367	769	395	605	586	0.97	575	30	8	8	980	979	22

※「R4.12希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施された進路希望状況調査による。

※あけぼの学園の上段は前期選抜、下段は特別選抜

資料5②

伊賀地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況（令和4年度）

高校名	学科・コース名	R4 募集定員	R3.12 希望者数	前期選抜等			後期選抜				再募集			合格者 総数	入学者数	欠員
				募集人数	志願者数	合格 内定者数	募集人数	志願者数 (最終)	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
上野	普通	240	200	/	/	240	217	0.90	240	/	/	/	240	240	0	
	理数	40	81	20	79	20	55	2.75	20	20	260	1	40	40	0	
	計	280	281	20	79	20	272	1.05	260	272	260	1	280	280	0	
あけぼの学園	総合学科	80	52	40	51	45	37	1.06	35	37	34	1	81	81	0	
	計	80	52	40	51	45	37	1.06	35	37	34	1	81	81	0	
伊賀白鳳	機械	35	32	18	30	20	/	/	103	105	103	/	240	240	0	
	電子機械	35	28	18	29	20	/	/	103	105	103	/	240	240	0	
	建築デザイン	35	45	18	46	20	/	/	103	105	103	/	240	240	0	
	生物資源	35	28	18	31	20	/	/	103	105	103	/	240	240	0	
	フードシステム	35	36	18	36	20	/	/	103	105	103	/	240	240	0	
	経営	30	25	15	24	17	/	/	103	105	103	/	240	240	0	
	ヒューマンサービス	35	40	18	42	20	/	/	103	105	103	/	240	240	0	
計	240	234	123	238	137	103	105	1.02	103	105	103	1	240	240	0	
名張	総合学科	200	222	100	229	105	109	1.15	95	109	95	1	200	200	0	
	計	200	222	100	229	105	109	1.15	95	109	95	1	200	200	0	
名張青峰	普通	200	192	60	194	66	127	0.95	134	127	134	/	200	200	0	
	文理探究コース	40	53	20	49	22	27	1.50	18	27	18	/	40	40	0	
	計	240	245	80	243	88	154	1.01	152	154	152	/	240	240	0	
伊賀地域計		1,040	1,034	367	841	395	677	/	644	677	644	1	1,041	1,041	0	

※「R3.12希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施された進路希望状況調査による。

※あけぼの学園の上段は前期選抜、下段は特別選抜

各高等学校の入学者の出身中学校と卒業者の進路状況（令和5年）

		上野	あけぼの 学園	伊賀白鳳	名張	名張青峰	
設置学科等 (R5募集定員)		普通(200) 理数(40)	総合(80)	工業(105) 農業(70) 商業(30) 福祉(35)	総合(200)	普通(200) 文理探究(40)	
R5.4 入学生の 出身中学校	伊賀北部 の中学校	人	161	38	194	39	64
		%	67.1%	54.3%	80.8%	20.7%	26.6%
	伊賀南部 の中学校	人	77	23	36	130	160
		%	32.1%	32.9%	15.0%	69.1%	66.4%
	上記以外の 県内中学校	人	1	9	8	15	12
		%	0.4%	12.9%	3.3%	8.0%	5.0%
	県外の中学校 (奈良県等)	人	1	0	2	4	5
		%	0.4%	0.0%	0.8%	2.1%	2.1%
	入学者数計	人	240	70	240	188	241
	R5.3 卒業生の 進路状況	4年制大学 (大学校含む)	人	238	2	33	29
%			90.2%	3.1%	13.2%	19.0%	58.8%
短期大学 (高専含む)		人	4	1	19	14	17
		%	1.5%	1.6%	7.6%	9.2%	6.7%
専修・各種学校 等		人	7	7	46	58	67
		%	2.7%	10.9%	18.4%	37.9%	26.3%
就職		人	2	47	148	47	8
	%	0.8%	73.4%	59.2%	30.7%	3.1%	
その他 (進学待機を含む)	人	13	7	4	5	13	
	%	4.9%	10.9%	1.6%	3.3%	5.1%	
卒業生数計	人	264	64	250	153	255	

※ 「伊賀北部の中学校」は伊賀市の中学校から青山中学校を除き、「伊賀南部の中学校」は名張市の中学校に青山中学校を加える。

※ 「%」は、各高校の「入学者数計」または、「卒業生数計」に対する割合を表す。

各高等学校の入学者の出身中学校と卒業者の進路状況（令和4年）

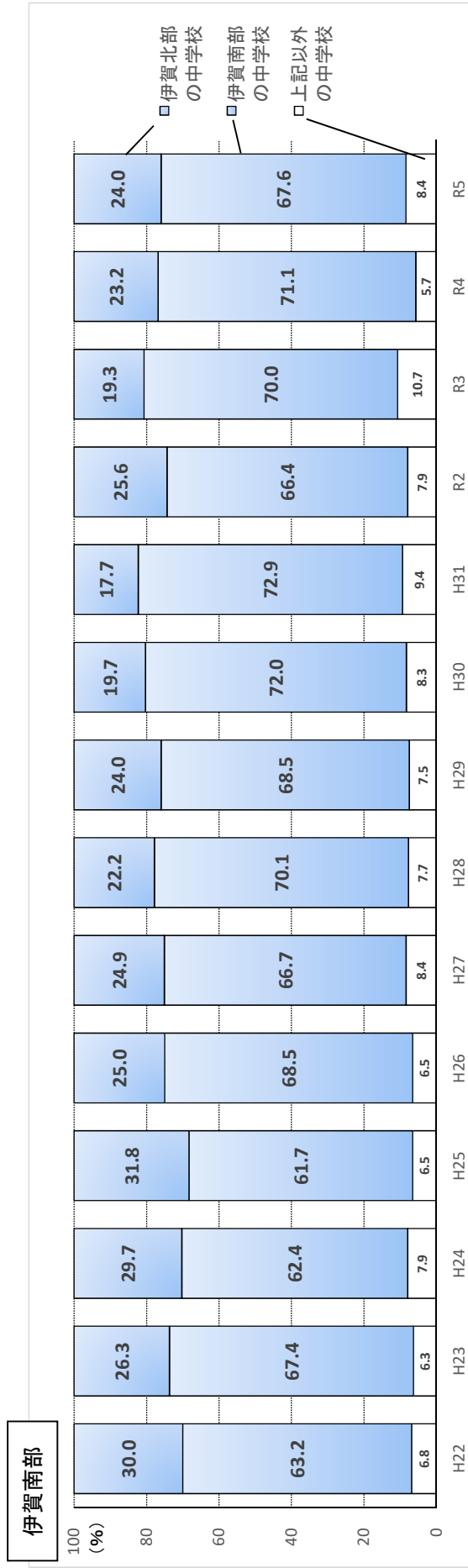
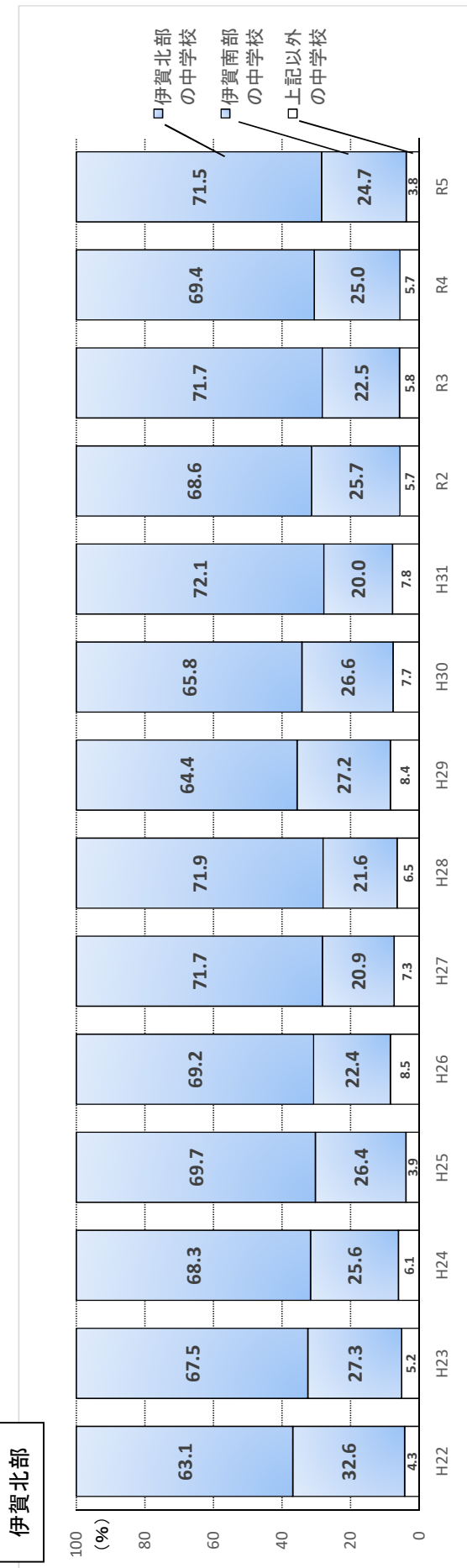
		上野	あけぼの 学園	伊賀白鳳	名張	名張青峰	
設置学科等 (R4募集定員)		普通(240) 理数(40)	総合(80)	工業(105) 農業(70) 商業(30) 福祉(35)	総合(200)	普通(200) 文理探究(40)	
R4.4 入学生の 出身中学校	伊賀北部 の中学校	人	196	42	179	47	55
		%	70.0%	51.9%	74.6%	23.5%	22.9%
	伊賀南部 の中学校	人	73	26	51	142	171
		%	26.1%	32.1%	21.3%	71.0%	71.3%
	上記以外の 県内中学校	人	4	12	6	2	11
		%	1.4%	14.8%	2.5%	1.0%	4.6%
	県外の中学校 (奈良県等)	人	7	1	4	9	3
%		2.5%	1.2%	1.7%	4.5%	1.3%	
入学者数計	人	280	81	240	200	240	
R4.3 卒業生の 進路状況	4年制大学 (大学校含む)	人	228	2	38	36	175
		%	83.2%	2.9%	13.9%	18.9%	65.5%
	短期大学 (高専含む)	人	4	0	12	20	9
		%	1.5%	0.0%	4.4%	10.5%	3.4%
	専修・各種学校 等	人	17	10	54	57	66
		%	6.2%	14.3%	19.8%	30.0%	24.7%
	就職	人	2	54	161	70	7
%		0.7%	77.1%	59.0%	36.8%	2.6%	
その他 (進学待機を含む)	人	23	4	8	7	10	
	%	8.4%	5.7%	2.9%	3.7%	3.7%	
卒業生数計	人	274	70	273	190	267	

※ 「伊賀北部の中学校」は伊賀市の中学校から青山中学校を除き、「伊賀南部の中学校」は名張市の中学校に青山中学校を加える。

※ 「%」は、各高校の「入学者数計」または、「卒業生数計」に対する割合を表す。

伊賀地域の県立高等学校への入学状況の推移【北部・南部】

資料 7



令和 5 年度の協議について

1 これまでの協議 ※詳細は別添「令和元・2年度の協議のまとめ」を参照

- 伊賀地域では、平成 16 年度から協議会を設置し、県立高校のあり方について検討を進めてきました。
- 平成 18 年度には、伊賀市内の専門高校 3 校を統合して新総合専門高校（H21. 4～伊賀白鳳高校）を設置することをとりまとめるとともに、平成 27～33 年度頃には伊賀地域の県立高校は 4 校程度となることをイメージ化しました。
- 平成 22 年度に協議会を再開し、平成 24 年度までの検討の結果、名張桔梗丘高校と名張西高校を統合して普通科をベースとした新しい高校（H28. 4～名張青峰高校）を設置することとしました。
- 平成 25・26 年度は、伊賀地域における中高一貫教育の実施について協議を行い、新たに中高一貫教育校を設置することは難しいと結論づけました。
- 平成 25～27 年度には、特別な支援を必要とする子どもたちの受け入れと支援について協議し、「特別な支援を必要とする子どもたちの県立高等学校への受け入れと支援について（平成 28 年 3 月）」をとりまとめました。
- 平成 27～29 年度には、専門学科の学科・コース、総合学科の系列について協議を行い、ニーズを把握するためのアンケート調査をふまえ、建築・土木コースの設置を進めていくことを確認しました。（H31. 4～伊賀白鳳高校に建築デザイン科を設置）
- 「令和元・2年度の協議のまとめ」においては、当面の間、現在の 5 校を維持することが望ましいとしたうえで、今後中学校卒業生数がさらに減少することから、現在の 5 校の再編を含めて検討し、その結果を令和 7 年度頃までに明らかにする必要があるとしました。

また、多様な学習ニーズにこたえる新しいタイプの学校の設置に関しては、どのようなニーズがあるかを的確にとらえるとともに、昼間定時制課程の併置を含めた定時制課程のあり方や、通信制課程の機能を取り入れた学習形態について検討する必要があるとしました。

- 令和 4 年度の協議会では、令和 4 年 3 月に策定した「県立高等学校活性化計画」に基づき、15 年先の当地域の中学校卒業生数の減少の状況もふまえ、伊賀地域の県立学校における学びと配置について協議を行いました。

2 協議の進め方

当協議会では、令和4年度から、令和4年3月に策定された「県立高等学校活性化計画」に基づき、15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえ、当地域での高等学校の学びと配置のあり方について検討を進めているところです。

今年度の協議では引き続き、「令和元・2年度の地域協議会のまとめ」や「県立高等学校活性化計画」、令和3・4年度の協議をふまえ、伊賀地域5校の教育内容や特色について詳細な情報を共有し、15年先を見据えながら県立高等学校の総学級数の段階的な減少に対する具体的な対応について協議を進めます。

なお、こうした検討は統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとします。

3 今年度の協議会開催スケジュール

- (1) 第1回協議会（7月25日）
 - ・伊賀地域の高等学校を取り巻く状況について
 - ・伊賀地域の県立高等学校の今後のあり方について①

- (2) 第2回協議会（10月頃）
 - ・伊賀地域の県立高等学校の今後のあり方について②

- (3) 第3回協議会（2月頃）
 - ・伊賀地域の県立高等学校の今後のあり方について③
 - ・令和5年度の協議のまとめ
 - ・来年度の協議会に向けて

伊賀地域の県立高等学校における学びと配置のあり方に係る協議

令和元年度から4年度までの協議を次の通り取りまとめました。

1 子どもたちに育みたい資質・能力

- 指示されたことをやるだけでなく、自ら課題を見つけて解決していこうとする力が求められている。最近の若者には、忍耐力がついてきたと思う一方で、向上心に欠ける印象を受ける。学校での学習にとどまらず、地域社会にも関心を持ってもらいたい。そのためにも地元企業が高校の教育活動にもっと参画すべきである。(令和元・2年度まとめ)
- 子どもたちが社会の変化や身近な課題を、どれだけ自分事としてとらえられるかが重要であり、そのためには課題の解決に向けて、友達と共同して取り組む経験を積むことが必要である。(令和元・2年度まとめ)
- これからは、よい大学に進学しよい会社に就職すれば、その先は安泰という社会ではなくなっていくので、失敗を恐れず挑戦できる力がますます重要になる。(令和元・2年度まとめ)
- 高校には課題のある子どもたちや支援を必要とする子どもたちも共に学んでおり、教員は様々な工夫をしながら教育活動を行っている。そんな中、「自立する力」と「共生する力」が大切であると感じており、課題を解決する力や情報を活用する力、コミュニケーション力を育む教育を進めたい。(令和元・2年度まとめ)
- 外国の子どもたちと比較すると、プレゼンテーション能力やPRする力の向上が必要であると感じる。(令和元・2年度まとめ)

- ・ 自ら課題を見つけて解決する力
- ・ 課題の解決に向けて協働する力
- ・ 失敗を恐れず挑戦する力
- ・ 自立する力と共生する力
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 情報を活用し、伝える力
- ・ 地域社会への関心

2 多様な子どもたちの状況と学習環境への対応について

- 多様な生徒を幅広く受け入れる広域通信制のような学校を県立で設置すれば、中学校卒業者数の減少が見込まれる中でも県内外から広く生徒が集まるのではないか。(令和元・2年度まとめ)
- 多様な学びを求めて地域外の通信制高校などへ一定数の子どもたちが進学する状況があるが、地域に昼間定時制の高校があれば、そういった子どもたちのニーズにも地域内で対応できる。その際、通信制の機能も持たせることでより幅広いニーズに応えることができる。(令和元・2年度まとめ)

- 山辺高校山添分校や英心高校に通っている生徒が多いのは、地元の学校が学びの多様化に対応できておらず、地域外へ出ていかざるを得ないためである。昼間定時制については、英心高校桔梗が丘校の定員を上回るニーズがあると考えている。(令和3年度協議会)
- 不登校の子どもたちが増加傾向にあることから、個別最適な学びや少人数指導へのニーズが高まっている。また、通信制課程へのイメージも前向きに変化してきており、学びの多様化を感じている。(令和4年度第2回協議会)
- N高校やS高校への進学者が増えているのは、新しい学び方のニーズの表れだと考えている。(令和3年度協議会)
- 高校受験に近い時期に来日した外国籍の子どもたちは、日本語を一定習得してから過年度で高校へ進学したり、昼間に日本語教室で日本語を勉強しながら夜間定時制高校で学んだりする生徒が一定数いることから夜間定時制は必要である。(令和元・2年度まとめ)
- 中学校では、不登校傾向の子どもたちに対し部分登校や個別の学習支援を行っている。このような子どもたちの多くは、昼間の時間帯に登校するのが難しいため夜間定時制へ進学したり、サテライト校で個別指導を行う私立の通信制高校へ進学したりする。また、特別な支援を必要とする子どもたちの中にも、特別支援学校の高等部ではなく、地域外の通信制高校へ進学し高校卒業の資格取得を目指す子どもたちもいる。それらの際、県立の通信制高校は、単位認定のハードルが高いことから、目的意識の高い生徒を除いては進路指導の際に積極的に勧めていない。(令和元・2年度まとめ)
- 令和4年度から名張市に開校された通信制の英心高校桔梗が丘校について、中学生はどのような理由で進学を希望しているのか。(令和4年度第1回協議会)
 - ⇒英心高校へは、不登校を経験した生徒などが、小さい集団の中でさまざまなサポートをしてもらえるところに魅力を感じて進学しているケースが多い。(委員)
 - ⇒伊賀地域の中学校からは、昼間定時制の山辺高校山添分校(奈良県)と比較して、距離が近い点、通学時間や交通費が少なくなる点、学校に行きづらい生徒の保護者からは送迎する際に便利である点、定時制は4年間通う必要があるが、通信制の英心高校は3年で卒業できる点に魅力を感じて進学していると聞いている。(事務局)
- 夜間定時制がある上野高校と名張高校には全日制もあるので、昼間定時制を併設するのは、教室数の不足などハード的にも簡単ではない。また、英心高校桔梗が丘校へは一定の進学希望者がおり、今後の動向を見極める必要がある。(令和4年度第1回協議会)
- 全日制高校5校の維持と昼間定時制や通信制高校の設置を別々に考えるのではなく、複数の機能を併せ持った学校を考えることができないか。(令和元・2年度まとめ)

- ・多様な学びを求めて地域外へ進学する生徒が一定数あることから、地域内でニーズに応じていくことが必要
- ・不登校傾向の子どもたちが増えており、昼間定時制や通信制のニーズが高まっている
- ・日本語を学びながら高校へ通いたい生徒にとって夜間定時制は必要
- ・特別な支援を必要とする子どもたちの中には、特別支援学校高等部ではなく高校の卒業をめざす生徒がいる
- ・英心桔梗が丘校は子どもたちのニーズを一定満たしており、今後の生徒の進路動向を注視することが必要
- ・全日制・定時制・通信制を別々に考えるのではなく、複数の機能を併せ持った学校を考える視点も必要

3 再編を検討するうえで大切にしたいこと

- 学校や学級数を減らすことありきではなく、伊賀地域をどのように活性化していくのかという視点を忘れてはならない。(令和3年度協議会)
- 伊賀地域は他地域からの流入が少なく、他地域への流出が多いので、どうやってら生徒を呼び込めるのかを議論したい。(令和4年度第1回協議会)
- 高校進学は、子どもたちが将来の希望を実現するための選択肢の1つである。小中学校の段階からキャリア教育を積み上げていくことが、結果として高校の活性化の取組にもつながる。(令和4年度第1回協議会)
- 子どもたちの学びのためには小中学校と同様に高校も統合して、一定の学級数を確保する必要がある。その際は、志願者が増加している英心高校桔梗が丘校や他地域の高校の活性化の事例も参考にしながら、今後の地域の県立高校の特色化・魅力化を考えていく必要がある。(令和4年度第2回協議会)
- 伊賀地域から人が離れていくのを防ぐためには、他地域にはない行政の施策が必要であり、学校活性化と地域活性化が両輪となることが大切である。(令和4年度第2回協議会)
- 県外からも志願者を集める方向性は考えられないか。(令和4年度第2回協議会)
- 以前から伊賀地域の県立高校のよさが中学生や保護者にうまく伝わっていないと言われている。将来を見通した議論に加え、各学校のPRをしっかりとすべきだ。(令和4年度第2回協議会)
- 「誰ひとり取り残さない」という視点から多様な選択肢をできる限り提供するには5校を維持することが望ましい。その際は、不登校や学び直しが必要な生徒など“学習弱者”への配慮を大切にすべきである。(令和元・2年度まとめ)
- 地域や地域内の企業にとってより多くの学校との連携が活性化につながる。財政的な面を置いておいて理想を言えば、現在の県立高校の校数が維持されることが望ましい。(令和元・2年度まとめ)

- 生徒の減少や交通の不便さがある中で、現在のままの学校数を維持するとなると、各高校の定員の充足が難しくなり活性化や魅力化が進められなくなることを危惧している。(令和元・2年度まとめ)
- 子どもたちの多様なニーズに応じた数多くの選択肢を用意することは大切であるが、同時にそのことによる学校運営上の課題やデメリットも明らかにして踏まえながら、県立高校のあり方を考える必要がある。(令和元・2年度まとめ)
- 1学級40人を前提に議論しているが、教員数を確保したうえで、少人数学級を導入できないか。伊賀白鳳高校は30人または35人の7学級としているが、教員数が6学級規模であり、教育の質の低下を招く恐れがある。(令和4年度第1回協議会)
- 地域の人口そのものが減少しており、高校の配置についても現実的な話をする時期に来ている。学習指導要領が改訂され、探究的な学びを進めていくためには、ある程度の規模があったほうがよい。また、教育にかけられる予算にも限りがあるので、いつまでも小規模校を維持し続けることはできず、どこかで再編の判断をする必要がある。(令和4年度第1回協議会)
- 交通事情から地域外に進学しにくい子どもたちもいる。地域の子子どもたちが地域の学校に進学できる環境づくりが大切である。(令和元・2年度まとめ)
- 十分な予算と人材があれば、何学級規模であっても活性化できるが、中学校卒業生数が減少し、教育関係の予算も減るという現実の中で、できる限り地域の子子どもたちの学びを保障し、効果的・効率的に学校を運営する方法を考える必要がある。今後は、役割や機能が近い学校をできるだけ集約して教育資源を集中化させ、スケールメリットを生かして子どもたちに選択肢のある学びを提供していくことが必要になってくる。(令和4年度第1回協議会)
- 伊賀北部で中学校卒業生数が減る中で高等学校の再編は避けられない。当協議会において、過去に、学校数を保ったまま地域の高校の特色化・魅力化を図り、域外への流出を減らすとともに他地域から通う生徒を増やそうという議論があったが、他地域でも同様に活性化に取り組んでいる中では難しい。あけぼの学園高校は小規模校として親切的な指導で生徒が安心できる学校づくりをめざす、上野高校は大学進学を中心に自己実現をめざす、伊賀白鳳高校は地域を担う人材を育成するという役割があるが、小規模化が進むと、上野高校で進学に必要な科目の講座を開設することが難しくなったり、伊賀白鳳高校で多様なコースを設置することができなくなり、その結果、伊賀市内の3校とも活性化できなくなることを危惧している。(令和3年度協議会)
- あけぼの学園高校のニーズはあるが、伊賀地域には総合学科が2校あることから、再編にあたっては、総合的・包括的に考えることが大切である。(令和3年度協議会)
- 将来何をやりたいかがわからないから総合学科を選ぶという中学生もいるので、現状の学科だけでニーズをとらえるべきではない。再編活性化を考える際は、配慮を必要とする子どもたちのことを考え、行き場がない子どもをつくらぬというのを、公立学校の役割として大切にすべきである。(令和3年度協議会)

- 生徒数の減少を客観的に判断すれば4校での再編は避けられないのではないかと。4校に再編する際は、その学校の学びや果たしている役割、良さをどの学校でどう引き継いでいくのかを議論することが大切である。(令和元・2年度まとめ)
- 学校運営を考えると学校の規模は少なくとも1学年4学級は必要である。一方で、あけぼの学園高校は2学級だからこそ、不登校傾向の生徒や学び直しが必要な生徒たちが安心して学び意欲的に活動できている。多様な子どもたちが活躍し自信をつけることができる学校としてこれからも残してほしい。(令和元・2年度まとめ)
- あけぼの学園高校には、特別な支援を必要とするが、本人や保護者の意向から全日制高校を卒業したいという思いのもと入学する生徒がいる。2学級は適正規模ではなく、大規模校を学級減することによって活性化が図られなくなるという考えはもっともだが、小規模だからこそ通える生徒が一定数いることにも留意してほしい。(令和3年度協議会)
- あけぼの学園高校は、小規模校の少人数を生かした丁寧な指導を行っており、そのような環境だからこそ通える生徒もいる。他の4校にはない魅力があるので、ICTの活用などにより、小規模校を残しながら活性化させることも検討すべきだ。(令和4年度第1回協議会)
- あけぼの学園高校は伊賀地域で重要な役割を担っているので、再編を考える際は、その役割を他の学校が担えるのかを考える必要がある。来年度開校する英心高校桔梗が丘校以外にも、伊賀地域には近大高専、桜丘高校、神村学園高校、愛農学園高校があり、これらの私立学校と県立高校との連携や役割分担がポイントになる。(令和3年度協議会)
- あけぼの学園高校は、これまでの活性化の取組によって特色化・魅力化が図られている。一方で、学級規模も大切であり、一定規模の学校が必要となったときに、あけぼの学園高校が担っている役割を他の4校で担えるのかどうかや、上野高校や名張高校の夜間定時制に昼間定時制を加えることができるのかどうかについて、議論しておく必要がある。(令和4年度第1回協議会)

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・高校の特色化・魅力化とその情報発信により他地域への流出抑制につなげる ・多様な選択肢を提供するために、できるかぎり5校を維持してほしい ・数多くの選択肢を維持することは大切であるが、中学校卒業者数が減少する中で、学校運営上の課題やデメリットも明らかにしたうえで検討を進めることが必要 ・できる限り地域の子どもの学びを保障し、効果的・効率的な学校運営を考えることが必要 ・役割や機能が近い学校をできるだけ集約させ、スケールメリットを生かして子どもたちに選択肢のある学びを提供していくことが必要 ・小規模校だからこそ通える生徒への配慮が必要 ・それぞれの学校の学びや役割をどのように引き継ぐかが大切 |
|--|

4 交通網に係る課題について

- 再編を考えるうえで大切なことは、子どもたちの学びの選択肢が確保されていることと、それを選択できるだけの交通手段が整っていることである。(令和4年度第1回協議会)
- 伊賀市内の高校は伊賀北部の中学校出身者、名張市内の高校は南部の中学校出身者が多くを占めており、地域全体で教育の機会均等が図られているとは言えない。再編を考えるうえでも、交通の便がよくないことに対する解決策を考える必要がある。(令和3年度協議会)
- 名張市内の中学校では、市内の学校へ進学する生徒の割合が増えている。お金と時間をかけて伊賀鉄道で上野高校や伊賀白鳳高校まで通わなくても、名張青峰高校で大学進学ができるし、名張高校や近大高専で就職ができるというように、子どもたちや保護者の意識が変わってきたためである。(令和3年度協議会)
- 各学校が魅力化の努力をしている中でも伊賀地域からの流出が増えているのは、伊賀鉄道の運賃が高いことにも要因があるので、何らかの条件整備ができないか。(令和3年度協議会)
- 北部と南部の行き来が少ない要因の1つは伊賀鉄道だが、あけぼの学園高校は、直通バスにより南部からの進学者が増えた可能性がある。(令和3年度協議会)
- あけぼの学園高校の通学バスの年間定期パスについても保護者の経済的負担は大きいので、近鉄沿線の学校を選んでいる生徒はいると思われる。(令和3年度協議会)
- 学びの選択肢だけでなく、新しく校舎を作ったりバイク通学を認めたりするなど、交通手段の選択肢も含め、いろいろなアイデアを出し合う必要がある。(令和4年度第1回協議会)
- 山辺高校山添分校の入学者が増えたのは、名張市内からのコミュニティバスの運行が大きな要因である。地域の均衡を図るためには、地元自治体を巻き込んだ交通の整備も重要な課題である。(令和3年度協議会)
- 仮に伊賀地域の5校が協力して通学バスを走らせれば、利便性は上がるし、費用も安く済むかもしれないが、一方でもっと大切なインフラ(伊賀鉄道)の経営を圧迫することになりかねない。(令和3年度協議会)
- 地域の高校の特色化・魅力化が図られなければ、交通の便がよくなったときに、さらに他地域への進学者が増えることも考えられる。(令和4年度第1回協議会)

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 学びの選択肢の確保に加え、それを選択できる交通手段の整備が必要・ 通学に係る経済的負担も高校を選択する上で重要な要素である・ 地元自治体を巻き込んだ議論が必要 |
|---|

5 今後の協議に向けて

- 各高校のより詳細な情報をまとめた資料を共有し協議したうえで、それらをふまえた具体案を事務局が提示してはどうか。また、その際、より協議が深まるよう複数の案を提示してほしい。(令和4年度第2回協議会)
- 先を見据えた議論は大切であるが、時間はすぐに過ぎてしまう。次年度の協議では、事務局から何らかの方向性を具体的に示してもらいたい。(令和4年度第2回協議会)
- 人口減少の中、学校と地域には共通の課題があるように思う。協議にあたっては、地域の自治体やまちづくり協議会からのアイデアや意見ももらえるとよいのではないか。(令和4年度第2回協議会)
- 今後の高校のあり方を考えていくためには、実際に高校に入学する子どもたちのニーズを把握することが大切であり、令和5年度から6年度にかけてアンケート調査を行ってはどうか。(令和4年度第2回協議会)

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・伊賀地域5校の特色と活性化・魅力化の状況が知りたい・事務局から学級減への対応の具体案を提示してほしい・子どもたちのニーズを把握するため、アンケート調査を実施してはどうか |
|---|

伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

資料10①

令和5年5月1日 教育政策課調べ

中学校卒業年月	R 2.3	R 3.3	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3
卒業生数	807	770	801	779	785	762	703	697	670	654	622	606	569
前年度対比		-37	31	-22	6	-23	-59	-6	-27	-16	-32	-16	-37
R5.3対比					6	-17	-76	-82	-109	-125	-157	-173	-210
①公立小中在籍者数	(735)	(724)	(739)	(720)	715	688	661	701	674	658	627	609	574
②私立小中在籍者数	(72)	(46)	(62)	(59)	57	51	23						
卒業生数	642	659	654	642	636	675	637	642	635	610	579	564	567
前年度対比		17	-5	-12	-6	39	-38	5	-7	-25	-31	-15	3
R5.3対比					-6	33	-5	0	-7	-32	-63	-78	-75
③公立小中在籍者数					634	675	637	673	665	640	608	592	597
卒業生数	1,449	1,429	1,455	1,421	1,421	1,437	1,340	1,339	1,305	1,264	1,201	1,170	1,136
前年度対比		-20	26	-34	0	16	-97	-1	-34	-41	-63	-31	-34
R5.3対比					0	16	-81	-82	-116	-157	-220	-251	-285
①②③小中在籍者数					1,406	1,414	1,321	1,374	1,339	1,298	1,235	1,201	1,171
伊賀地域立高校の1学年学級数	27	27	27	26	26								
() 内は入学定員の計	(1,080)	(1,040)	(1,040)	(1,000)	(1,000)								

(参考)

	R 2.3	R 3.3	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3
卒業生数	16,489	15,777	16,244	16,055	15,893	15,669	15,463	15,253	14,747	14,408	14,045	14,001	13,487
前年度対比		-712	467	-189	-162	-224	-206	-210	-506	-339	-363	-44	-514
R5.3対比					-162	-386	-592	-802	-1,308	-1,647	-2,010	-2,054	-2,568
小中在籍者数					15,871	15,645	15,454	15,379	14,862	14,532	14,156	14,133	13,578

伊賀地域の中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)【北部・南部別】

資料10②

令和5年5月1日 教育政策課調べ

中学校卒業年月	R 2.3	R 3.3	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3
卒業生数	747	708	738	718	731	681	641	630	610	594	574	552	515
前年度対比		-39	30	-20	13	-50	-40	-11	-20	-16	-20	-22	-37
R5.3対比					13	-37	-77	-88	-108	-124	-144	-166	-203
①公立小中在籍者数	(675)	(662)	(676)	(659)	661	609	599	631	612	596	577	554	517
②私立小中在籍者数	(72)	(46)	(62)	(59)	57	51	23						
卒業生数	702	721	717	703	690	756	699	709	695	670	627	618	622
前年度対比		19	-4	-14	-13	66	-57	10	-14	-25	-43	-9	4
R5.3対比					-13	53	-4	6	-8	-33	-76	-85	-81
③公立小中在籍者数					688	754	699	743	727	702	658	647	654
卒業生数	1,449	1,429	1,455	1,421	1,421	1,437	1,340	1,339	1,305	1,264	1,201	1,170	1,137
前年度対比		-20	26	-34	0	16	-97	-1	-34	-41	-63	-31	-33
R5.3対比					0	16	-81	-82	-116	-157	-220	-251	-284
①②③小中在籍者数					1,406	1,414	1,321	1,374	1,339	1,298	1,235	1,201	1,171

伊賀地域県立高校の1学年学級数	27	27	27	26	26								
()内は入学定員の計	(1,080)	(1,040)	(1,040)	(1,000)	(1,000)								

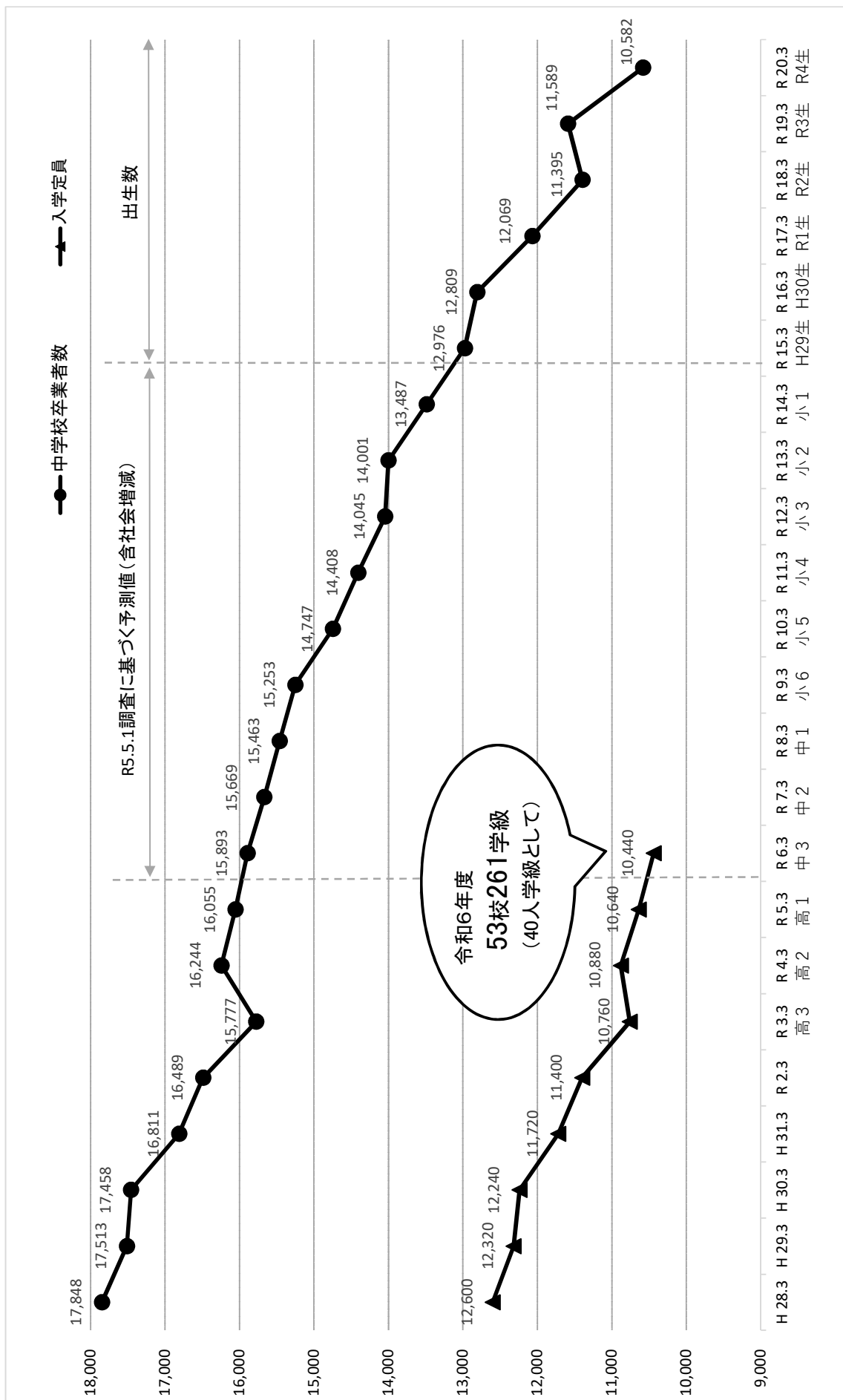
※ 伊賀北部＝伊賀市から旧青山町を除く。

※ 伊賀南部＝名張市に旧青山町を加える。

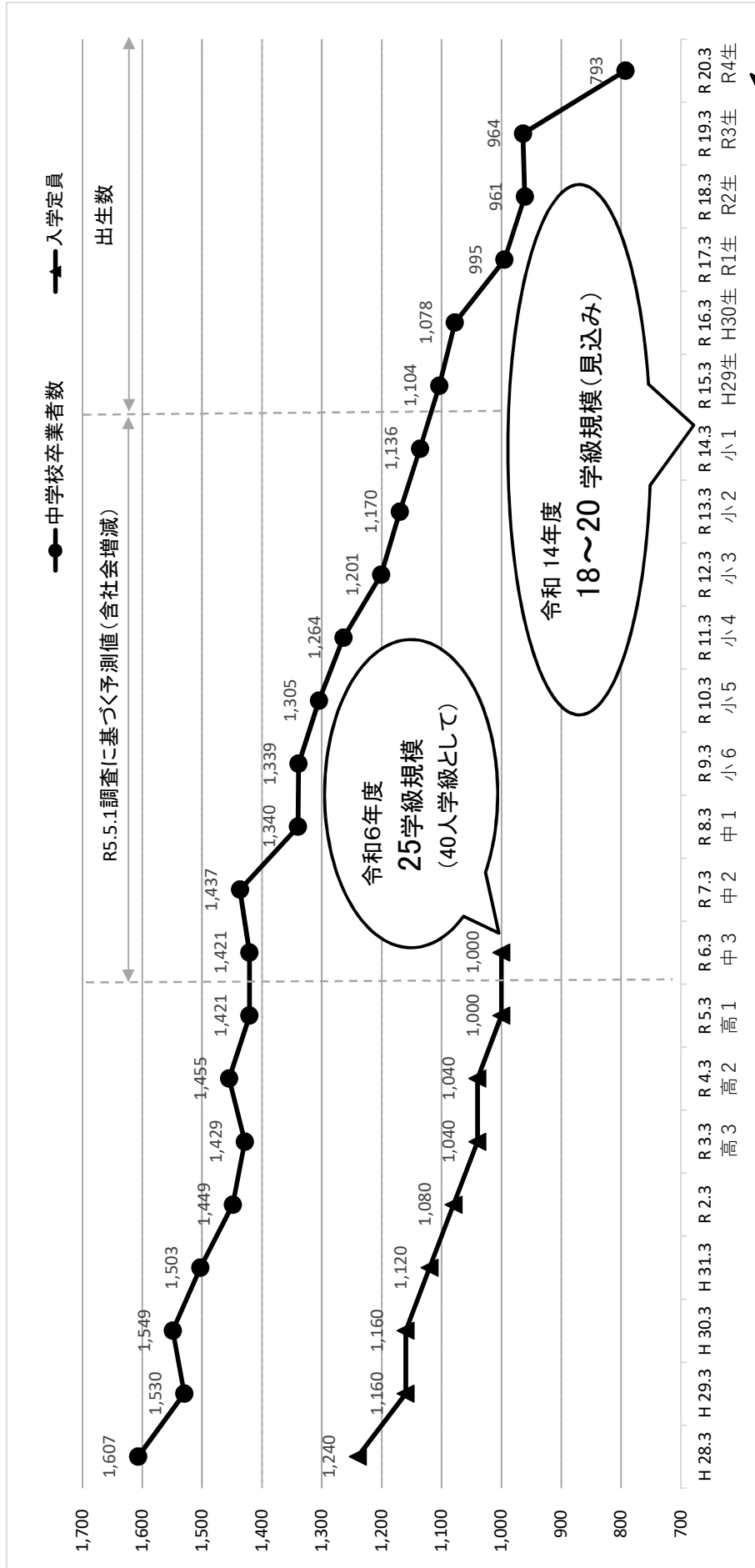
(参考)

卒業生数	R 2.3	R 3.3	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3
前年度対比	16,489	15,777	16,244	16,055	15,893	15,669	15,463	15,253	14,747	14,408	14,045	14,001	13,487
R5.3対比		-712	467	-189	-162	-224	-206	-210	-506	-339	-363	-44	-514
小中学校在籍者数					15,871	15,645	15,454	15,379	14,862	14,532	14,156	14,133	13,578

県全体の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員の推移



伊賀地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員の推移



伊賀地域の出生数

	H28年度 現小1	H29年度 5~6才	H30年度 4~5才	R元年度 3~4才	R2年度 2~3才	R3年度 1~2才	R4年度 0~1才
伊賀市	643	582	569	533	534	527	434
名張市	584	522	509	462	427	437	359
計	1,227	1,104	1,078	995	961	964	793

伊賀地域の高等学校等の学科・コースについて

資料14

伊賀地域 全日制課程		募集定員(RG)	学科								
県立	上野高校	240	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科			
県立	あけぼの学園高校	80	総合学科					4 系列/80人	4 系列9 専攻/200人		
県立	伊賀白鳳高校	240	1000	専門学科	電子機械(35) ・ロボット ・電気工学	建築デザイン(35) ・建築・インテリア ・デザイン	生物資源(35) ・生物資源科	フードシステム(35) ・フードサイエンス ・ハテイク	経営(30) ・経営科	ヒューマンサービス(35) ・介護福祉 ・生活福祉	
県立	名張高校	200	200	総合学科	総合アドバンス系列 ・人文専攻 ・看護医療専攻	総合ビジネス系列 ・ビジネス専攻 ・情報処理専攻	健康スポーツ系列 ・健康スポーツ専攻	表現デザイン系列 ・美術専攻 ・音楽専攻 ・ファッション専攻 ・映像専攻	普通科系/480人		
県立	名張青峰高校	240	240	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	文理探究	
私立	桜丘高校	155	155	普通科	普通科(155)					普通科	文理探究

- 全日制
 - ※ 私立 愛農学園農業高校 25 人 農業科
 - 定時制課程
 - 県立 上野高校 40 人 普通科
 - 県立 名張高校 40 人 普通科
 - 通信制課程
 - 私立 英心高校 桔梗が丘 20 人 普通科：探求コース
 - ※ 私立 神村学園高等部伊賀 70 人 普通科：選択登校型、全日型（両型合わせた年間募集定員 70人）
 - 高等専門学校
 - 私立 近畿大学工業高等専門学校 160 人 機械システム、電気電子、制御情報、都市環境（3年次よりコース選択）
- （※県外扱い）

令和5年度 上野高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 生徒が学びがいを実感する学校
- 保護者・地域が頼りがいを実感する学校
- 教職員が働きがいを実感する学校

2 学校の特色（理数科1学級＋普通科5学級）

124年の歴史と伝統があり、多くの卒業生が各方面で活躍しています。学業と部活動の両立をモットーに、9割を超える生徒が部活動に加入しており、東海大会や全国大会の場で活躍している部もあります。

学習面では65分授業により、しっかりと考えたり、他者と話し合いを行ったりする時間を確保することができ、充実した学習活動を行っています。生徒は授業後や放課後も積極的に教員に質問したり、教室や自習室、廊下の自習机などを活用したりして、意欲的に学習に取り組んでいます。放課後や長期休業期間には課外授業を充実させるなど、学校をあげて生徒一人ひとりの進路希望の実現をサポートしています。

さらに、予測困難な社会を生き抜く力を育成するため、令和元年度からは文部科学省「スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）」の指定を受けて、先進的な理数教育や大学との共同研究、国際性を育む取組等にも力を入れています。また、令和4年度からは文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」の指定を受けて、普通科の探究活動の充実につながるプログラム開発を進め、課題解決力等の育成を図っています。

（1）学科の特徴

<理数科>

最新の研究と設備を擁する大学等との連携により、生徒の学習に対するモチベーションを高めています。理数科は各学年1クラスのため、理数科ミーティング（理数科1～3年生の集まり）で縦のコミュニケーションも大切にしています。また、理数科独自の行事もあり、本校卒業生が働いている企業や東京大学を訪問する「東京キャリアアップツアー」や、夏期休業期間に2泊3日で実施する「理数科勉強合宿」等を行っています。

<普通科>

高等学校の学習を幅広く行い、自分のめざす方向を見つけ、その志望を実現する力を育成しています。普通科は1つの学年に5クラス（現2・3年生は6クラス）あるので、横の連携を大切にしながら探究学習などを進めています。また、数学の授業において、習熟度別講座を展開するなど、生徒一人ひとりの学習理解等に応じたきめ細かな授業を行っています。

（2）充実した学校生活

バス研修、体育祭、合唱コンクール、文化祭、クラスマッチ、修学旅行（2年生）等の学校行事も充実しており、クラスの仲間等と一緒に楽しい高校生活を過ごすことができます。

また、部活動（運動部11、文化部11、同好会2）も熱心に取り組んでおり、より充実した高校生活を過ごすための部活動に出会うことができます。

令和5年度 上野高校（定時制）の特色

1 めざす学校像

- 生徒が学びがいを実感する学校
- 保護者・地域が頼りがいを実感する学校
- 教職員が働きがいを実感する学校

2 学校の特色（普通科1学級）

- (1) 本校は、働きながら学べる夜間定時制として歴史が古く、多くの卒業生が社会で活躍しています。
- (2) SHRが17時25分から始まり、授業は17時30分から21時00分までの1日4限授業です。2限終了後に給食があり、パン、米飯、麺類などを組み合わせた献立です。
- (3) 学科は普通科で、3年と4年では選択科目があり、生徒は興味・関心に応じて学習に取り組んでいます。
- (4) 少人数で一人ひとりに合ったきめ細かな指導を行っています。また「心のふれあい」も大切にしています。
- (5) 国籍や年齢も異なる生徒が、お互いを認め合い、協力しながら一緒に学んでいます。
- (6) 「働きながら学べる学校」として、生徒が昼間働くことを支援するとともに、ハローワーク等と連携を取りながら就職したい生徒への支援を積極的に行っています。
- (7) 授業規律を大切にし、学び直しにより、基礎学力が身に付く学習環境をめざしています。安心して授業に取り組める環境づくりを行っています。
- (8) 担任や進路指導部、就職実現コーディネーターと連携し、生徒一人ひとりの希望を大切に、生徒の能力や適性に合ったきめ細かい進路指導を行っています。
- (9) 卒業後は、就職する生徒が多いですが、四年制大学に進学する生徒もいます。授業以外の時間で補習を行うなど、個に応じた支援を行っています。
- (10) 生徒会活動も盛んに行っています。文化祭や球技大会、ボウリング大会などのレクリエーションでも生徒の意見を反映した活動に取り組んでいます。また、バス研修旅行、修学旅行といった学校行事なども行っています。
- (11) 通信制との併修により3年間で卒業することもできます。

本校の定時制は、夜間定時制で、多くの生徒が昼間働きながら夜間に学んでいます。中学校卒業後に入学する生徒がほとんどですが、編入生や20歳を超えてから入学する生徒もいます。在籍している生徒の国籍、年齢、職業は多様であるとともに、中学校時代に不登校を経験している生徒や、もう一度高校で学び直しをしたいと入学してきた生徒など、一人ひとりの事情は異なります。そのような生徒が、違いを認め合い、お互いを励まし合って家族的な雰囲気の中で、安心して前向きに学校生活を送っています。

授業では、必要に応じて中学校の復習を取り入れるなど、わかりやすい授業展開を心がけています。ICTの活用やアクティブラーニング型の授業も多く、生徒が主体的に学ぶ態度の育成に力を入れています。

生徒の「学びたい」気持ちを大切にして、確かな学力や規範意識を身につけ、社会で活躍できる人材の育成をめざしています。

令和5年度 あげぼの学園高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

「強く明るく真心で」を校訓とし、一人ひとりが、あげぼの学園高校の生徒として「自信と誇り」を持ち、地域に貢献し地域から信頼される学校

2 学校の特色（総合学科2学級）

あげぼの学園高校は、前身の伊賀高校から平成10年に校名変更、総合学科へ学科改編し26年目を迎えています。「夢を夢で終わらせない！」多様な学びを展開し、充実した学習環境や社会人講師の方々による授業等、しっかりとしたサポート体制のもと学びを深めています。

（1）総合学科4つの系列

2年次からは4つの系列に分かれて、一人ひとりが希望する進路実現に向けて、特色ある多くの選択科目から選んで学びます。

○美容服飾系列

美容やメイクアップやさまざまなデザインに関する知識や技術を広く学ぶことができます。また、櫃原美容専門学校通信制課程と連携し、卒業時に美容師国家試験に挑戦することができます。

○製菓調理系列

和菓子、洋菓子やパンづくりに関する理論や技術を学ぶことができます。

○情報教養系列

幅広い教養を身につけるとともに、情報化社会に対応するための知識や技術を学ぶことができます。

○健康福祉系列

福祉や介護に関する知識や技術、さらに健康に生きていくうえでの体力づくり等について学ぶことができます。

（2）個に応じた学び（基礎学力・日本語指導）に向けた取組

3年次の就職試験等に対応できるよう、基礎学力の定着に力を入れています。必修科目の国語・数学・英語は習熟度別や少人数講座で、きめ細かな指導を行い、わかりやすい授業を展開しています。また、日本語指導を必要とする外国人生徒は、選択科目や一部の教科で日本語指導アドバイザーや日本語教師の資格を持つ社会人講師の指導により、社会生活に必要な表現・文化の学習や日本語能力試験に取り組んでいます。

（3）地域に学ぶ

「主体的に考えて行動し、自分の道を自分で切り開き、社会に貢献することができる生徒の育成」を目標に、総合学科の特色ある4つの系列で、「地域に学び、地域と共に、地域のためにできること」を、地元伊賀市と連携して実施しています。

フィールドワークやインターンシップ等の機会を通じ、生徒が地域を知り、魅力を感じ、そして魅力を発信する活動を通して、自分に自信を持ち、これからの伊賀地域を牽引する人へと成長することを期待しています。

（4）ICTの活用の推進

令和3年度入学生から、入学時に全員がiPadを購入し、ICT活用能力の育成や学びに向かう力の育成等に取り組んでいます。学ぶ喜びや達成感を実感できる授業を展開しています。

令和5年度 伊賀白鳳高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 「力」と「志」を持った職業人を育成し、地域に貢献できる学校
～地域の学校として、地域の子どもたちを地域で活躍できる人材に育成する学校～

【育みたい生徒像】

- ・自ら学び、判断し、行動する生徒
- ・思いやりの心と規範意識をもち社会に貢献する生徒
- ・専門的な知識・技術を身につけ、未来を切り拓く生徒

2 学校の特色

（機械科、電子機械科、建築デザイン科、生物資源科、フードシステム科、経営科、
ヒューマンサービス科 各1学級）

(1) 専門教育

- 工業・農業・商業・福祉の専門教育のノウハウを集結し、魅力ある7学科11種類の学びを通じて、3年間をとおした系統的なキャリア教育を進め、卒業後は各分野のスペシャリストとして伊賀地域での活躍をめざします。
- 1年次の1学期に行う「産業技術基礎」の授業で、全ての学科・コースの学習内容を体験し、2学期から各学科・コースに分かれます。
2、3年次には、インターンシップや進路ガイダンス等のキャリア教育を通じて、自らの将来について考え、望ましい職業観や勤労観を身に付け、卒業後に社会人となるための意識を高めます。
- 前期選抜はそれぞれの学科で募集し、後期選抜は全ての学科をまとめて募集する「くくり募集」を行っています。前期選抜で入学した生徒はコースを、後期選抜で入学した生徒は学科とコースを入学後に決定します。

(2) 地域・企業との協働による人材育成

- 地域や企業との協働による新しい人材育成システム（伊賀版デュアルシステム）を導入し、毎週木曜日には企業や保育園等で学習を行い、職業人として社会で活躍できる人材を育てます。
- 7学科それぞれが、学科の特性を生かして地域や企業と連携した取組を行っています。また、学科の枠を超えた取組も多く、「白鳳Café」は、スイーツやジャム、クッキー、観葉植物、野菜など、各科の実習作品を展示・即売する全学科の生徒が連携して運営するCaféです。

(3) 部活動の振興

- 伊賀地域のスポーツ・文化の拠点として、部活動の振興を図ります。

伊賀白鳳高校では興味・関心や適性にあった進路を選択し、その実現に向けて基礎学力、専門知識・技術、マナーやコミュニケーション能力を身につけた生徒を育成します。部活動や各種検定・資格試験における成果や地域と連携した活動をとおして、自信・やる気を高め、地域に貢献できる生徒を育成します。

令和5年度 名張高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 校訓である「自律」「協調」「創造」の精神を生かし、地域とともに新時代の社会で活躍できる人材を輩出する学校

2 学校の特色（総合学科5学級）

(1) 名張高校全日制について

- ・総合学科（4系列9専攻） ・創立107年（総合学科22年目） ・地域に開かれた学校
- ・盛んな部活動 ・生徒指導（あいさつ・礼儀の重視） ・SDGsを意識した取組
- ・Society5.0に対応する資質能力の育成のための地域連携

(2) 系列・専攻の概要 ○系列 ★専攻

○文理アドバンス系列

★ 人文専攻……大学進学をめざす

- ・文系大学等への進学を実現できる学力を身につけます。 ・地域との協働をとおして、社会で活躍できる力を身につけます。 ・英語の出前授業など地元小学校との連携を深めています。

★ 看護・医療専攻……医療系への進学をめざす

- ・看護・医療系大学・専門学校等への進学を実現できる力を身につけます。 ・名張市立病院と名張市立看護専門学校の講師から直接学びます。

○ 総合ビジネス系列

★ ビジネス専攻……企業の即戦力をめざす

- ・情報やビジネスの基礎を学び、地域や企業で活躍できる力を身につけます。 ・名張の観光資源を題材に地域の活性化を考えます。 ・地域貢献のあり方について探求していきます。

★ 情報処理専攻……情報のスペシャリストをめざす

- ・情報処理や「情報の活用」について学びます。 ・情報機器を使って名張の観光資源について調査分析をおこない、観光推進案を提案します。 ・魅力ある情報発信についての提案を行います。

○ 健康スポーツ系列

★ 健康スポーツ専攻……健康促進リーダーをめざす

- ・地域の健康促進のリーダーとなり、社会で活躍できる力を身につけます。 ・消防や警察への就職実績を生かし、地域貢献します。 ・地域支援を受け、校内で健康教室等を運営します。

○ 表現デザイン系列

★ 美術専攻……日常を美で彩る

- ・造形表現の基礎となるデザイン、絵画を中心に学び、地域の活性化につなげます。 ・校外での制作展に向けて企画・運営を行い、作品説明、展示、広報を生徒が行います。

★ 音楽専攻……音で心を豊かにする

- ・音楽知識を学ぶとともに演奏技術と自己表現力を高めます。 ・企画・構成・練習の成果を地域へ積極的に発信します。 ・成果発表のための校内外コンサートを行います。

★ ファッション専攻……イメージをデザインする

- ・自分の表現したいものをデザインし、形にしていく技術を高めます。 ・製作した作品をより効果的に表現する能力を身につけます。 ・校外でのファッションショーを行います。

★ 映像専攻……魅せる動画を創る

- ・依頼者のニーズを的確に把握し、動画としてまとめていく企画力を身につけます。 ・地域の商業写真家や写真映像系専門学校の講師から直接学びます。 ・学校案内動画等を作成します。

令和5年度 名張高校（定時制）の特色

1 めざす学校像

- 校訓である「自律」「協調」「創造」の精神を生かし、地域とともに新時代の社会で活躍できる人材を輩出する学校

2 学校の特色（普通科1学級）

（1）定時制の教育理念

- 学習・生活の基礎基本を確立し、個の「自律」と社会的な「自立」能力を育成する。

（2）本校定時制の特徴

◇ 育みたい生徒像

- ・ 挨拶や身だしなみなど基本的な生活習慣が身についている生徒
- ・ 社会で必要とされる基礎的な学力があり、自ら考え判断し行動できる生徒
- ・ 人権と生命尊重の意識が高く、規範意識や社会的マナーを備えた生徒

◇ 具体的な取組内容

- ・ 丁寧でわかりやすい授業による基礎学力の定着
- ・ トリプルAの取組（あんしん・あいさつ・あきらめない）
- ・ 多様な生徒に対する多様な支援、サポート
- ・ 通信制との併修により3年間で卒業することも可能

（3）名張定時制の3年戦略 ～「自律」と「自立」に向かって

○ 令和4年度 「生活も学習も基礎・基本」

- ・ 基礎学力と基本的な生活習慣の確立

生徒一人ひとりのつまずきのポイントを各教科担当が把握し、少人数の強みを生かし、生徒個々の特性や学習進度により学習活動や学習課題を柔軟に設定し、指導の個別化と学習の個性化を図った。

○ 令和5年度 「自律に向けて主体的に」

- ・ “出来ること増やし” とコミュニケーション能力の向上

生徒自身が自分のよさや強みに気づき、将来につながる社会性や人間力を養うことを目標に、教員は生徒に対して、苦手なことや避けたいことから逃げず、やってみることを、向き合うことを推奨し、そのこと自体を評価するようにしている。

○ 令和6年度 「社会参画で自立へ」

- ・ 社会とのつながりを意識し、就労や協働による社会性の構築

社会的な自立につながるよう系統的な進路指導を行うとともに、就職実現コーディネーターの支援を得ながら正規雇用を実現する。

令和5年度 名張青峰高校（全日制）の特色

1 基本理念

◎めざす学校像

○新時代をたくましく生き抜く未来人を育てる学校

2 学校の特色（普通科1学級【文理探究コース】＋普通科5学級）

《普通科・文理探究コース》

○国公立大学や難関私立大学へ進学するために必要な学力を育成するコースです。

○専用の科目群から必要な授業を選択して学びます。

○将来、幅広い分野で専門職として活躍できる資質を育成します。

○学習の意義・本質を探究する態度を育成します。

《普通科（未来創造コースと呼称します）》

○多様な選択科目やキャリア教育により、未来を創造するコースです。

○目標に応じた多様な科目群から必要な授業を選択して学びます。

○四年制大学・短期大学・専門学校から就職まで幅広い進路に対応します。

○自分の個性を伸張し、自らの進路を創造します。

3 ICTの活用

○平成28年度の開校時に全館無線LAN、全普通科教室へのプロジェクター型電子黒板、翌29年度に全特別教室にプロジェクター型電子黒板が整備された最先端の環境で、生徒一人ひとりが持つChromebookをフル活用しています。授業時間だけではなく、通学の時間や家庭での学習にも活用が進んでいます。

○学校生活のあらゆる場面でGoogle Workspace for Educationの活用が進んでおり、新しい学びのスタイルを展開しています。この取組が評価され、全国で50校程度のGoogle for Educationの事例校に認定されています。

4 充実した学習指導とグローバル教育

○放課後・週末等の部活動は、どちらのコースも同じように参加することができます。

○週あたりの授業時間数は50分×32時限で、勉強と部活動の両立を応援します。

○オーストラリアの姉妹校との相互訪問やICTを活用した国際交流を積極的に行っており、英語コミュニケーション能力とグローバル社会で活躍できる資質や能力を育成します。

5 探究学習

○探究学習のスキルを学ぶ「青峰探究Ⅰ」や、自分の興味関心を知り、実際に探究・発表することにより、進路実現につなげていく「青峰探究Ⅱ、Ⅲ」の時間があります。3年間をとおして「未来を拓く」ための学習ができます。

6 「文部両道」をモットーに勉学と部活動の両方を大切

○体育系

陸上競技 硬式野球 サッカー バasketボール バレーボール ハンドボール
テニス ソフトテニス ソフトボール バドミントン 剣道 卓球 ホッケー

○文化系

E S S 吹奏楽 書道 電子計算機研究 放送 写真 美術 文芸 茶道 箏曲
調理 人権サークル